

1 型紙の準備

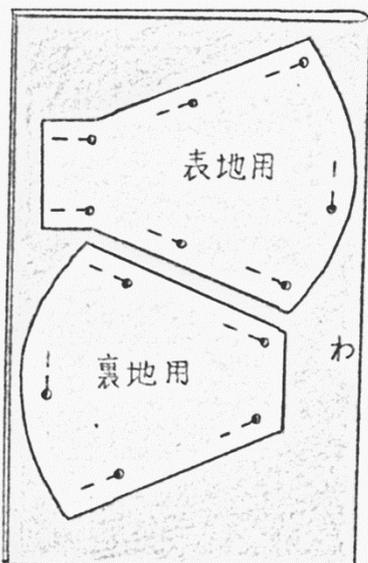
次の3種類の型紙プリントのうち、1つを選んで実線(裁ち切り線)にそって切り取る。

- ・ 岡山県教育委員会の立体マスクの型紙 ←小学生や小顔の人に向いている。
 - ・ // 型紙(大) ←高校生向き。115%拡大したもの。
 - ・ // 型紙(大・ロング) ←(大)を3cm延長したもの。
- ※(大・ロング)は短いゴムでも耳に届きますが、ノーズフィッターを付けた方が安定します。

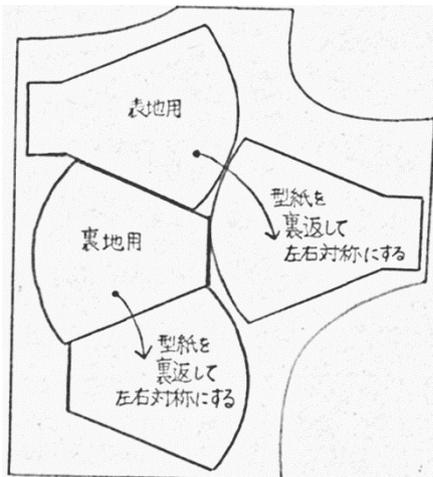
2 裁断・しるし付け

1. 点線(できあがり線)のしるし付けを省略する方法

ハンカチや手ぬぐいなど四角い布をリメイクするときは中表(柄がきれいな表が内側)に折り、下図のように型紙をまち針で固定します。(左右対称に2枚ずつとれます) 型紙の実線(裁ち切り線)にそって布を切ります。(不安な人はチャコペンシルで線を描いてから切ってください。) 型紙の⊕(鼻側)の位置に小さく×印を付けます。



でこぼこの布をリメイクする場合、裏を上にして広げた状態で右図のように型紙を並べ裁断します。それぞれ片方の型紙を裏返して置くことで左右対称にしましょう。



学校の古い教材用エプロン布とさらしをリメイクする場合

教員と家庭科係が型紙(大・ロング)裁断し、型紙の⊕(鼻側)に×印を付けています。教育委員会の型紙や、型紙(大)のサイズがよい人は、型紙を当て直して裁断するか、ゴム通しの部分の幅を広めに折って縫ってください。また、教材用エプロン布に印刷されているピンク色の文字・記号・線は、完成後、使用前に洗剤液につけ置きして手洗いで洗濯すると、溶けて消えてなくなります。

2. 点線(できあがり線)のしるし付けをする方法

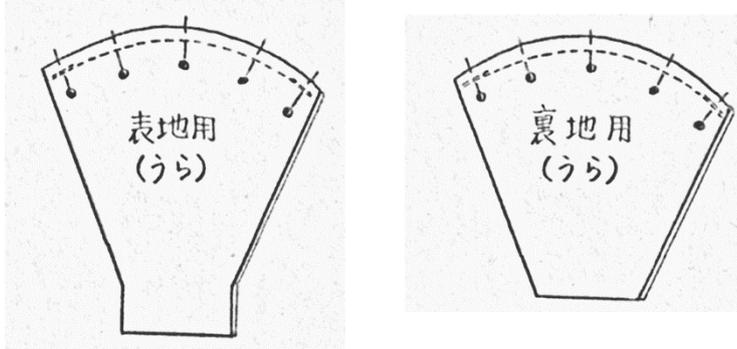
できあがり線がないと不安な人は、外表(柄がきれいな表が外側)に折り、1の方法と同様に裁断してください。次にチャコペーパーを間にはさんでルレットかヘラで、できあがり線をなぞってしるしをつけます。(型紙の縫い代の幅を測りチャコペンシルで直接布に描く方法や、できあがり線で切った型紙をあてて描く方法もあります。)

③ 左右のパーツの中心側のカーブを縫い合わせる。

表布（外面用）、裏布（内面用）をそれぞれ中表にきちんと重ねる。

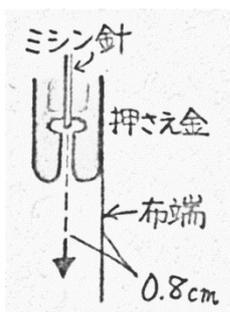
（この型紙は上下対称ではないので、上（鼻側）の×印同士を合わせるとよい。）

まち針は、縫う方向に垂直に縫いしろ側に打つ（刺す）のが一般的だが、今回は縫いながら自分の利き手で抜き取りやすい向きに打ってよい。（2枚がずれなければよい。布同士の摩擦ですれにくい場合は、まち針を省略してよい。）



ミシン：布端とミシンの押さえ金の右端を合わせて等間隔(約 0.8cm)で縫う。

縫い始めと縫い終わりは1～1.5cm 程度、返し縫いする。



方法1：返し縫いレバーを押して縫う

方法2：方向転換して重ねて縫う

（ミシン針を刺したまま押さえ金を上げて、布を逆方向に回し、押さえ金を下げて縫う）

方法3：返し縫いをせず、糸端を結ぶ。（苦手な人）

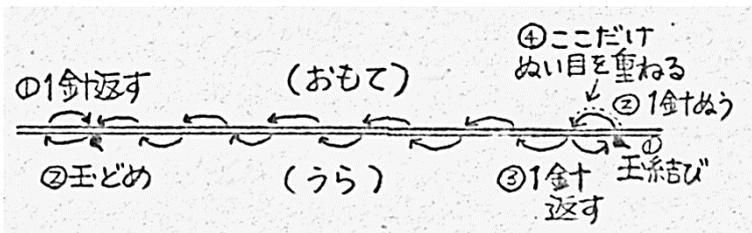
コツ：布端のきわまで縫わず、1、2針手前でやめると布端がぐちゃぐちゃになるのを防ぐことができる

手縫い：布端から0.8～1cmのところを3～4mmの針目で並縫いする。

始めと終わりに1針返す（進行方向と逆方向に1針分縫う）と丈夫になる。

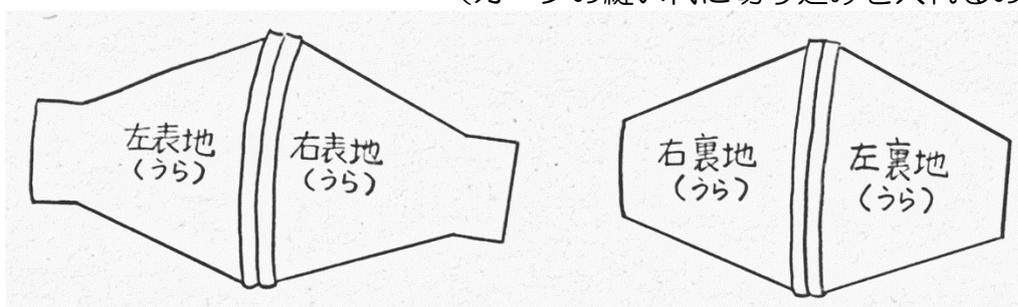
縫い始めは玉結び、縫い終わりは玉どめ。

布の断面から見ると
右図のようになる



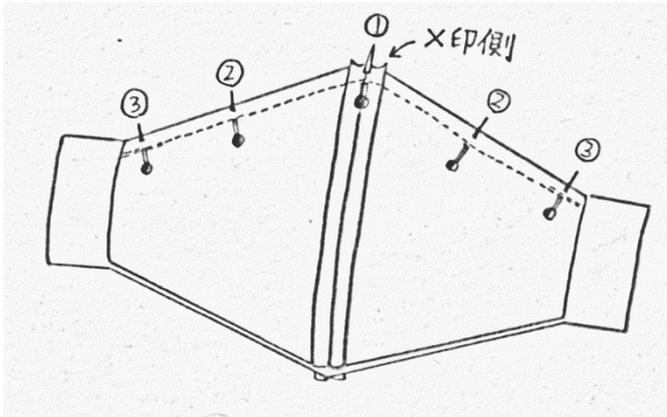
④ ③の縫い代を指アイロン（指でなぞって形を整えること）で割る（開く）。

（カーブの縫い代に切り込みを入れるのは省略する。）



5 中表に合わせて上辺を縫う。

まち針を打つときは、最初に中央の縫い代の割れ目同士を合わせて打つ。
表地、裏地とも上辺の端には×印が付いているので、上下を間違えないようにする。
次に上辺の布端をきちんと合わせて中央から端の順番で打つ。



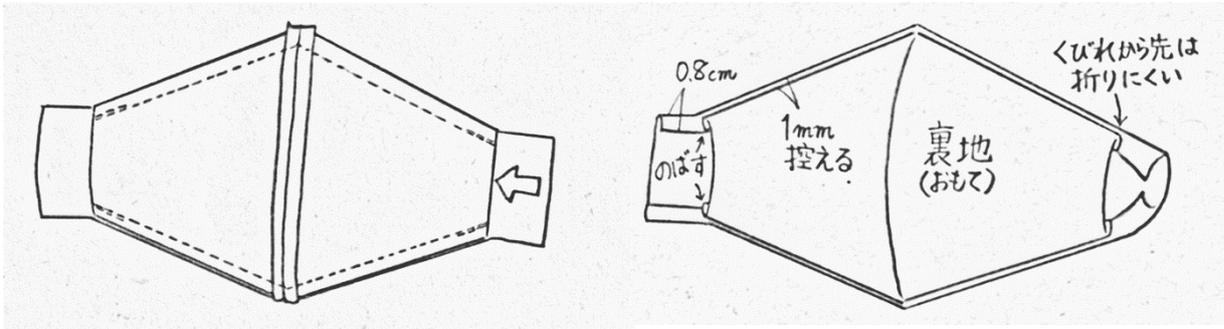
表地のくびれと裏地の左右の端が多少ずれても、ゴム通し口で隠れるのでよい。
ミシン、手縫いとも前中心のカーブを縫ったときと同様に縫う。
ただし、縫い代の割れ目の部分が縫っている途中で折れないように注意する

6 中表に合わせて下辺を縫う。

5と同様に下辺にまち針をうつ。ここまでの作業が正確なサイズでできていると表地の型紙に比べて裏地の型紙は1~2mmだけ小さいので、平らには重ならない。下辺の布端同士をきちんと合わせると、裏地がつり、表地がゆるんだような重なり方になる。(そうならなくても気にしなくてよい) ミシン、手縫いとも5と同様に縫う。

7 下図の矢印の位置から指を入れ、布をつまみだして表にひっくり返す。

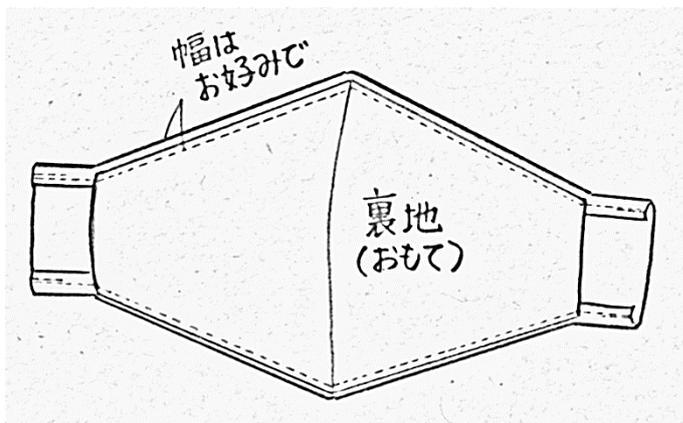
指アイロンで形を整える。ここまでの作業が正確にできていると、裏地が1mm程度控えられた状態になる。



ゴム通しの部分は表地のくびれのために縫い代が折りにくい。
くびれの縫い代を引っ張って伸ばしてから折るとよい。

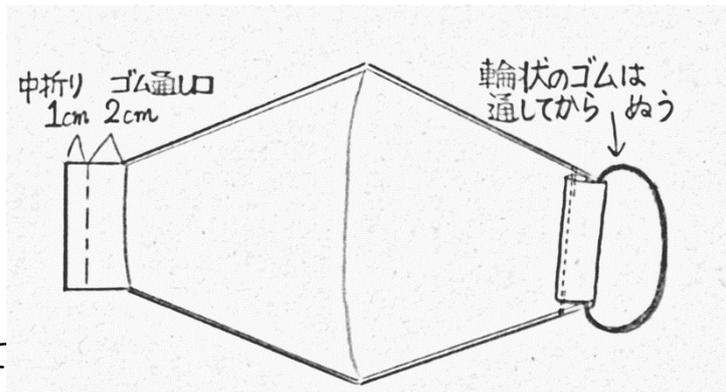
7' お好みで上辺と下辺に端ミシンをかける。手縫いの場合は並縫いする。

(内側の縫い代が縫われて安定するので、余裕のある人はやってみましょう)

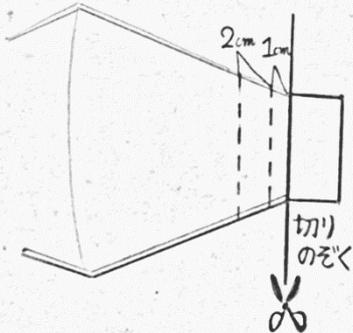


8 表地の両端を三つ折りで内側に折り、端ミシンをかける。

型紙(大・ロング)の場合、輪状になったヘアゴム、ストッキングの輪切りを利用するので、右図のようにゴムを通してから縫う。顔のサイズにフィットするか不安な場合、針目の大きな手縫いで仮縫いし、耳にかけて確認してからミシンをかけるとよい。大きすぎる場合、三つ折りの折り幅を広くして調節するとよい。



型紙(大・ロング)の布で型紙(大)のサイズに変更したいとき



左の図のように両端を3cm幅で切り除き、中折り1cm、ゴム通し口2cm幅で三つ折りして、端ミシンをかけるとよい。

9 ゴムを通して、長さを調節する。結び目はマスクの中にしまう。

(ひも状のゴムを使う教育委員会の型紙または型紙(大)の場合)

ひも状のゴムがないときは、ストッキングを縦長に1.5~2cmの帯状に切ると勝手にくるくる丸まってゴム状になります。

10 着用する前に、洗濯する。

洗剤液につけ置き、やさしく手洗いします。(もむと型崩れします。洗濯機を使うのは論外です。よくすすぎ、清潔なタオルで水分を吸わせてから干します。)

着用した後は、洗剤液での洗濯だけでなく、漂白剤による除菌をしましょう。白い布と色柄の布では使用できる漂白剤が違うので、表示を確認しましょう。

11 応用編

- ・ノーズフィッターの代用として、着用する前に上辺中央にワイヤー入りビニールタイをテープで貼り付ける。サージカルテープ(絆創膏)やテーピングテープを使用する。
- ・裏地を2~3枚重ねて縫う。ただし厚くなりすぎると家庭用ミシンでは縫いにくい。不織布の芯地をはさんで縫うとフィルターのようなになる。(抗菌医療用マスクのような特殊加工はされていない)
- ・裏地だけでインナーパッドを数枚作り、立体マスクの内側にあてておくと、鼻水などで汚れたときに交換できる。

※身近にあるものをリメイクして、たくさん布マスクを作っておきましょう。

毎日、洗濯して衛生的に使うのが基本です。